

報道関係者 各位

広島県におけるオセルタミビル(商品名:タミフル)耐性を示す

新型インフルエンザウイルスについて

広島県から、タミフル耐性を示すH275Yの遺伝子変異を持つ新型インフルエンザウイルスが分離され、薬剤感受性試験により薬剤耐性が確認されたとの報告がありましたので、その概要について、別紙のとおり、情報提供します。

資料提供

平成21年12月18日

担当：危機対策本部

担当者：健康福祉総務課 小林

電話：082-513-3029

内線：3029

抗インフルエンザウイルス薬「タミフル」に耐性を示す 新型インフルエンザウイルスの確認について

広島県内の患者から採取された新型インフルエンザウイルスについて、遺伝子解析を実施したところ、タミフルに対する耐性を持つ遺伝子変異であるオセルタミビル耐性遺伝子275Yが検出されましたので、その概要についてお知らせします。

なお、厚生労働省に確認したところ、この変異はウイルスの病原性には直接影響をおよぼすものではないとのことです。

1 検査結果

広島県立総合技術研究所保健環境センターの遺伝子解析の結果、オセルタミビル耐性遺伝子275Yが検出され、国立感染症研究所によりオセルタミビル耐性及びザナミビル（商品名：リレンザ）感受性が確認されました。

2 患者の概要及び経過

(1) 患者概要：40歳代，女性

(2) 経緯

11月28日 タミフルを服用していたが、発熱（38.7℃）したため、医療機関を受診し、簡易迅速検査で「陽性」が判明した。

検体採取を行い、リレンザの内服を開始した。

11月29日 患者の症状は軽快した。

※その後、周囲の者への流行、感染したとの情報は無い。

3 その他の検査状況

(1) 広島県立総合技術研究所保健環境センターでは、これまでに新型インフルエンザウイルス135株（検体）について遺伝子解析を実施していますが、タミフル耐性を持つ遺伝子変異を本例以外に確認していません。

(2) なお、全国では12月17日までにオセルタミビル耐性遺伝子275Yが24例確認されており、中国地区では、山口県、島根県の検出例に続き3例目になります。

本件は、平成21年10月8日付け厚生労働省新型インフルエンザ対策推進本部 事務連絡「新型インフルエンザ（A/H1N1）に係る今後のサーベイランス体制について（改訂版）」に基づき、新型インフルエンザウイルスの遺伝子解析等により、薬剤耐性を確認したことから、厚生労働省との連携のもと、公表を行うものです。

プライバシーを尊重した対応をお願いします。